

A J P S

ASSOCIATION JAPON DE LA PRESSE SPORTIVE

日本スポーツプレス協会会報

NEWS



AJP

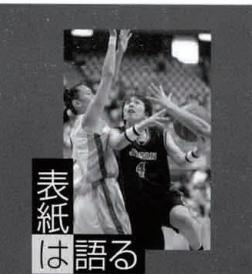
20
MARCH.20
2003

REPORT OF SALT LAKE OLYMPIC WINTER GAMES [ソルトレーク・オリンピック報告]

2002 FIFA WORLD CUP KOREA/JAPAN [サッカーワールドカップ取材・出版事情]

REPORT OF AOMORI WINTER ASIAN GAMES [青森アジア冬季競技大会報告]

INFORMATION



表紙
は語る

ワールドカップサッカー、MLBイチロー、ボンズ。巨人・松井からヤンキースのMATSUI、K-1ボブ・サンプ。これらのが、世の中を騒がせた2002年。

最近、思っていることの一つに「スポーツの生命線」とはなんだろう、ということ。そして、このつぎは、いったいどうなるのだろう……。ドキドキ、ワクワクを何度も体感したい、という感動を求めて、ファンアスリートたちが、新たな成長を作り上げていくものだろう。

スポーツを撮影はじめた頃から、バスケットボールという競技に少なからず興味を持ったが、ひんぱんに写真で撮影に挑むようになり、これが10年になろうとしている。インアスポートの世界でも、今ある種の一つであるはずが、国内に目を向けるとマイナービューされる傾向に受け取られる。その原因は、その競技自体にフレークでも掛かっているのか、バスケットボールを取り巻く環境は、依然として改善のめどが立っていない。観客席にいっぱい並んでいて、あらゆる所にTVカメラがあり、スーパースターがコートをとろとろ狭い活躍している、といつた風景は、本当に迎えられるのだろうか。

「日本のバスケットボールをもっとメディアにしたい、と思います」WJBL・ジャパンエナジー・浜口典子選手は、TVの優勝インタビューの最後にこう付け加えた。

この言葉は、選手達はもちろんのこと、ファンにとっても切望することではないだろうか。今でも鮮明に記憶している。そして、これからもバスケットボールの成長を見つけてゆきたい。

加藤誠夫
Yoshiro KATO

■撮影者プロフィール



1965年2月7日、東京都生まれ。東京写真専門学校(現東京ビジュアルアーツ)報道写真科卒業。中学生の時に、ニュース専門誌の写真を見てショックを受け、スポーツカメラマンになることを志す。現在、サッカー・バスケットボール、バレーボールを中心撮影。最近はタレントや映画監督の撮影など幅広いジャンルで活動している。もちろんテニスの撮影も継続中。

foreword

21世紀のAJPS るべき姿とは

白髭 隆幸
Shirahige, takayuki

ソルトレーク冬季オリンピックで明けた2002年のスポーツ界は、6月の韓日共催のサッカーワールドカップ、9月の釜山アジア競技大会、そして不況にも関わらず次から次へと続くスポーツイベントと共に嵐のように過ぎ去った。

わがAJPSも新しい執行部が立ち上がり、21世纪に入つて新たなるスタートをきつた。前執行部が企画した2000年記念事業(写真集『21世紀スポーツの肖像』発行と都内9ヵ所におけるほぼ同時開催の写真展)多くの会員の努力と賛助会員の皆様の協力で無事に終えることができた。AJPSは20世紀とよく決別できたのではないかと思っている。

さて「年2回発行」ということで企画しているこの『AJPS NEWS』であるが、このところ発行が滞っている。それは、もちろん発行責任者である広報担当理事のわたしの責任が大である。ただし2001年度については、理事会から「予算がないので暫時発行を待つてほしい」という理由で取材済みの企画も世に出た。

ことなく流れてしまった。要するに2000年記念事業で予算をはるかに超す経費がかかりAJPSの金庫が枯渇してしまったためだ。これは結構たいへんな問題だが、結局誰が責任をとるでもなく今日を迎えている。まあ、最高責任者であった水谷会長が直後のAJPS役員選挙で再選され、記念事業の最大の功労者・菅原正治会員が新たに理事に選ばれたことを鑑みれば、記念事業は会員の方からは信託を得、成功裏にめでたくおわったものと判断してよいのだろう。

1976年、16名でスタートしたAJPSも創立27年で会員130名をこす組織となつた。昨年の役員選挙で薬師洋行会員が会の運営に対して一石を投じてくれたが、わたしも『AJPS NEWS』の製作に携わっていて、いろいろと考えさせられることも多い。

21世紀のAJPSをどんな組織にするのか、いま一度、役員だけでなく会員一人ひとりが深く考える時期にきていると思う。

A J P S のホームページが立ち上りました。

前々から懸案となっていました日本スポーツプレス協会(A.J.P.S.)のホームページが2002年の12月に立ち上がり、アクセス可能になっております。

<http://www.ajps.jp>



今すぐアクセスしてみてください。

内容としては「インデックス」「A.J.P.S.概要」「A.J.P.S.年表」「A.J.P.S.からのおしらせ」「会員情報」「会員ページ」(ログインにはIDとパスワードが必要です)「スポーツイベントスケジュール」「スポーツ団体リンク」(JOCに加盟している団体と主要スポーツの団体のHPに入れます。そこから国際連盟IFにもリンクしています)「毎日がスポーツ三昧!」(毎日更新。スポーツの読み物です)などの項目があります。

新年度からは、新たに広報委員会の下に

A.J.P.S.広報委員会

第1回

AJPS杯 ボーリング大会を開催

昨年12月10日、ドゥ・スポーツプラザ晴海にて、第1回AJPS杯ボーリング大会(及び懇親会)が開催されました。

賛助会員、協会員合わせて総勢46名の参加を頂き、盛況に終える事ができました。御協力頂いた皆様に、心より感謝申し上げます。また2003年もぜひ第2回開催し、今後恒例化したいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

■第1回AJPS杯ボーリング大会成績
(2ゲーム合計)
第1位 田村民雄(前キャノン) 349
第2位 赤松秀夫(コニカ) 342
第3位 山崎浩子 336
以上が上位3位までの成績です。

A.J.P.S.総務委員会



第1位の田村様にトロフィーを贈る山崎浩子会員

C O N T E N T S

- 4 ソルトレーク・オリンピック報告
薬師洋行・菅原正治・折山義美
- 8 サッカーワールドカップ取材・出版事情
赤木真二
- 11 青森アジア競技大会レポート
白髭隆幸
- 13 インフォーメーション

(ソルトレーク冬季オリンピック)
取材レポート

「フリーランスでもADカードを取得、取材できた」

われわれフリーランスにとって、オリンピックの取材は年々厳しくなっている。切符取材のようにも回を追うごとにチケットは高騰、機材の持ち込みに對しても厳しく制限される。かといってADカードを取るのは不可能に近い。昨年ソルトレークで開かれた冬季オリンピックで長年の取材実績がIFから認められADカードを取得された薬師洋行会員と菅原正治会員のケースを、本人に執筆していただいた。あわせてライターの立場で取材された折山敏美会員のレポートも紹介する。

労したはずだ。それでも腕章だけでは十分ではなく、それに加え“会場と日付を印刷したチケット”が配付され、腕章につける必要もあった。もちろんコースへの入場には常にチェックされ、時にはコース内でもチェックされたほどだ。

また、オンコースでの注意事項として“アイゼン必携”的条項も入っていた。最近のコース作りは水を撒いて作られるのでアイスバーン状態が普通、撮影位置の確保、場所の移動には絶対アイゼンが必要なのだ。実際にスノーベーシンの滑降コースではコース脇を歩いていたカメラマンがアイゼンをつけていたにもかかわらず転倒、滑落、そして骨折という事故も起きている。

前年のプレ大会では強風や悪天候のために満足にレースが行なわれなかつたが、どうしたことか本番では快晴続き。女子滑降で快晴ながら“強風”的に順延されたことはあったが、ほぼスケジュール通りに日程は消化されて行った。

長野五輪から4年、撮影状況は大きく変わった。その最たるもののが“デジカム”的急速な進歩である。長野ではカメラとモニターの一体型が一部でようやく出たばかりだったのに、ソルトレークでは通信社、新聞社はもちろん、フリーの間でもデジカム全盛。DSLなど通信事情の後押しもあって“撮影する送る”がスマートに、瞬時に行なわれたのである。そのあたりを受けたのが“フィルム”市場であろうか。閑散としたTOPスポンサーであるコダックのサービスエリアの寂しさは、今も目に焼き付いている。

撮影現場でもデジカムと銀塩との違いを否応なく感じさせられることになる。競技の安全上、通常のワールドカップよりも遠くからの撮影になりがちな状況でも、デジカムならともに簡単に可能となるのである。フィルムで600mmのレンズが必要だったとしても、デジカムなら400mmのレンズ感覚となる。逆にいえば、デジカムで600mmのレンズに1.4倍のテレコンを使って撮影すれば、フィルムの1100mmか1200mmでの撮影に匹敵することになる。だから高速系の競技にデジカムはもう

ソルトレーク五輪取材事情 薬師洋行 Hiro Yakushi

厳戒下のもと行なわれたソルトレーク冬季五輪。私にとっては9回目の冬季五輪だった。

これまでと違ったのは、まずIOCは競技種目のスペシャリストをIF(競技団体)に依頼して選出、NOC(各国オリンピック委員会)からADが配付されないプレス(フォトグラファーとジャーナリスト)に対しADを発給したことである。私にはFIS(国際スキー連盟)を介して申請用紙が届けられた。前のシーズン中にそういう IOC(がスペシャリスト棒を考えている)微候を察知してはいたが、その意外な素早さには少々面面らったほどだ。フリーにとって“AD”は何よりの“お宝”である。スキーワールドカップを取材して30数年、ようやくフリーの立場で得たものだった。

だがADが出たからといって100%の取材保証はない。室内競技では特別チケットを必要とする場合もあるし、スキーの

アルペン競技では“オンコース・ビブ”を必要とするからだ。ただし私のADはFISが管轄する競技にのみ有効だったので、取材したのはアルペン、ジャンプ、フリースタイル、クロスカントリーの“SKI”競技だけ。もちろんメインはアルペン競技だったが…。

この競技では最近安全性が特に重視され、選手との衝突事故によるカメラマンの骨折、選手の転倒によるケガ、死亡などもあって、コース内への入場は厳しく制限された。FISはプライオリティ(優先)リストを作成、各会場(スノーベーシン、パークシティ、ディアパレー)のフォトチーム(組織委の雇ったスペシャリスト)が“オンコース・腕章”的付にあたった。その数は40~50枚だったのだろうか(詳細は不明)。私を含めスキーのスペシャリストたちには五輪期間中有効として与えられたが、ディアリーデ許可される者もた。日本の通信社、新聞社でもその入手には苦



「9.11」の影響を色濃く引きずった開会式。花火は美しかった
Photo by M.SUGAWARA

てこいということになる。

もう一点、デジカムにはボタン一つでISO感度を変えられる利点がある。フィルムならISOの違う何種類かを用意するか、または増感する必要が出てくるが、デジカムではその必要はない。画質のクオリティの問題もある。しかし時間と追っかけこの“五輪報道”ということを考えれば、もはやデジカムの優位性に疑問を挿むものはない。

日々刻々、画質のクオリティや性能の向上が計られているデジカム。次の五輪までにはどんな進歩が見られるのだろうか。楽しくもあり、恐ろしくもある。

アルペンを取材するカメラマンはインスペクション(下見)のあとレース開始1時間前に撮影位置につかなければいけない。競技の安全上、通常のワールドカップよりも遙かからの撮影になりがちな状況でも、デジカムならともに簡単に可能となるのである。フィルムで600mmのレンズが必要だったとしても、デジカムなら400mmのレンズ感覚となる。逆にいえば、デジカムで600mmのレンズに1.4倍のテレコンを使って撮影すれば、フィルムの1100mmか1200mmでの撮影に匹敵することになる。アルペンのカメラマンにとって“早起き”が必要となつた。アルペンのカメラマンにとって“早起きは三文の得”というわけだ。

2002年ソルトレークオリンピックの取材を終えて 菅原正治

Masabaru Sugawara

■ADカード取得

オリンピックは、夏、冬合わせてADカードを取得しての取材は5回になります。今回は、IOCのスポーツスペシャリストというカテゴリーが新たに新設されての枠でADを取得しての取材になりました。スケート競技に限定されたADでしたのが開会式、閉会式のチケットティングに関してもバスにかかる時間、リフトにかかる時間、スタートリストのピックアップなどを逆算して起床、出発時間が決まる。その上、今回は予想以上に厳しい“チェック”(金属探知機とX線)でがブレスセンター(サブセンターも含め)、駐車場(クルマ乗換時)、会場入口などで行なわれたため、我々にとってはさらなる“早起き”が必要となつた。アルペンのカメラマンにとって“早起きは三文の得”というわけだ。

於いても数名の日本人が同様な推薦を受けてADが発給されており、今後もこの制度が継続するので有れば、日本のフリーランスソフトグラファーにとって朗報と言えるのではないでしょうか。

■取材の現状

スケート三競技は、どれもインドアリンクで競技が行われました。取材の現状を報告したいと思います。

フィギュアスケート、ショートトラックは同一リンクで競技が実施されました。フォトボジョンは統一されたものでアイスレベルとアッパーレベルで構成されています。取材には、ADカード、カメラマンビブズと当日行われる競技のチケットを保持していないければ会場に入場する事が出来ません。チケットはスポーツスペシャリストに



外圧によって判定が覆ったフィギュアスケート、ペア。スポーツのことはスポーツの中で決めるべきだ
Photo by M.SUGAWARA

は全て事前に配布されましたが、国別配布に於いては各種目の決勝競技は人数制限が厳しく日本割り当ては数枚しか無く、通信社、新聞社、雑誌が分けて代表取材をしていました。アイスレベルのフォトポジションは、リンクの曲線部分を中心と両サイドに設けられました。また、審判席横には、2~3名の国際通信社専用のカメラポジションがありました。また、アップバーレベルは、審判席斜め後方の客席(30名分位)をカメラマン席と確保して区画されていました。

フィギュアスケートでは、一般的に審判席サイドに近い方が選手の表情が見え良いと言われていますので国際通信社のフォトポジションはベストと言えるのではないかでしょうか。ショートトラック競技は、撮影意図によりポジションの選択は変わりますのでどの場所が良いとは一概に言えません。フォトポジションの確保は、当日に先着順で選択出来ました。その為、朝早くから機材等を置いて場所を確保するはめになってしまいました。しかし、場所取りの多くが日本人で有り、他の国の人々から苦情によるものと思われますが、途中から機材等を置いただけの場所取りは認めない事なり、本人がその場所に居な

い場合、定期的に(30分間隔)に確認して荷物は排除されました。フォトポジションのスペースが狭いため、また、良い撮影位置を確保したいと考えから場所取りを行なわれる時は、多くの取材が殺到する国際大会同様でオリンピックも例外ではありません。

複数競技を取材する場合、移動の連続で撮影ポジションの確保も難しく、永遠の課題かもしれません。取材スペースの効率良い拠点を望んでいるのは私だけではないでしょう。

スピードスケートの競技会場は、フォトポジションもアイスレベルとアップバーレベルに分かれていますがアイスレベルのスペースが広く全体的にはゆったりと撮影が出来ました。しかし、ゴール正面になるコーナーにはスタートとゴールシーンを狙うカメラマンの約90%がデジタルでした。オリンピック前年暮れに発売になったキヤノンのデジタルカメラ(EOS-1D)を各国のカメラマンがいち早く使用しているのには驚きました。日本では入手が困難であったのですから。また、二コマ、コダック、キヤノンのサポートに助けられて安心して取材できました。途中からその場所での撮影が出来なくなりました。理由はテレビカメラの妨げになると言うことでした。選手がゴールした瞬間にスチールカメラマンが立ち上がり、プライドになった事が原因でした。会

■デジカメが90%を越す

オリンピックを取材するたびに、技術革新には目を見張るものがあります。特に撮影機材はフィルムからデジタルカメラと大きく変わりました。撮影しているカメラマンの約90%がデジタルでした。オリンピック前年暮れに発売になったキヤノンのデジタルカメラ(EOS-1D)を各国のカメラマンがいち早く使用しているのには驚きました。日本では入手が困難であったのですから。また、二コマ、コダック、キヤノンのサポートに助けられて安心して取材できました。途中からその場所での撮影が出来なくなりました。理由はテレビカメラの妨げになると言うことでした。選手がゴールした瞬間にスチールカメラマンが立ち上がり、プライドになった事が原因でした。会



ジャンプを取材中の折山会員

疲労感が積み重なったオリンピックベテランの頑張りで救われた

折山敏美
Toshimi Oriyama

朝7時、出かけようとしてモーテルのドアを開けると、外は霧雨が降っていた。

「ア、やっぱりか」

気持ちは一気に沈んだ。2月20日、ソルトレーキ五輪の大会13日目、スケルトンの試合がある日だった。

前日の公式練習を終え、越和宏の表情は明るかった。すべての選手が全力でいるのでは無いといえ、納得がいく滑りができた練習では、最後にトップタイムを出していったからだ。

「本当に満足できる公式練習でしたね。こんな感じは、これまでのW杯での味わったことがないですよ。後は雪が降らないことを祈るだけですね。細かい雪なら風で飛ぶけど、湿った雪になら最悪ですけど」

越はこう話していたのだった。だが当日は天気予報通りの雪。しかもソルトレーキが雨なら、山は湿った雪のはず。越は、37歳にして迎えた初めての五輪を、最悪の条件で迎えることになったのだ。

「それが一つの運命なのかもしれない」

そう考へながら車で山に向かった。せめてもの願いは、湿った雪ではなく、気温が下がって乾いた雪になることだった。だが、会場につくと、標高2000mのコースに

は、牡丹雪が降っていたのだ。

通常のW杯ならキャンセルになってもおかしくないような条件。それでも始まつた試合では、W杯で抜群の強さを誇っていたトップスタートのオーストリア、ステーリーのタイムがそれほど伸びず、4番スタートのアメリカ・シェアーがトップタイムを叩き出す。その時点で競技の中止可能性は少くなり、15番スタートの越は6番目のタイム。

続けて行われた女子で、アメリカがワンツーのタイム。これで完全に、競技中止の可能性はなくなった。

越は2本目も結局タイムを伸ばせず、8位。肩を落とした後ろ姿が印象に残った。

2月8日から開幕したソルトレーキ五輪は、とにかく疲れだけが残った大会だった。

2日の女子モーグルで里谷多英が銅メダルを獲得して好スタートを切ったかに見えたが、翌日のスピードスケート男子500m、清水と同走の選手のフライングを明らかな見逃し。連絡を狙った清水宏保は2位につける羽目になり、翌日もそのハンドで覆せず銀メダルに終わった。

さらにフィギュアスケートペアでは、テレビのパッキングで後押しされるように、審判の不正疑惑が持ち上がって異例の2

ペア金メダル。私にしてみれば、クラシックが好きか、ポップスの方が好きかの違いだけにしか思えない演技内容。私とすれば、フリー滑走でカナダのマークに衝突されて左手首を痛めながら、真摯な態度で演技を終えたシハルリゼに感動したし、ロシアペアの優勝に何の疑問も感じなかった。

さらには、ショートトラック男子1000m決勝で明らかに自分から他の選手に体当たりした上、別の選手の走路を妨害したアボロ・オーノへのペナルティ無しの判定。そして1500mの不可解なアボロの繰り上がり優勝。そんないい加減な判定にもかかわらず、単純にアメリカの勝利を喜ぶだけの観客に呆れた上、日本勢の不振も重なって疲労感が積み重なるだけだった。

大会も後3日間となった22日、複合最後の種目であるスプリントで33位に終わった荻原健司が、悔しさを滲ませながらも、自らの義務を全うするように記者の前に立った爽やかな潔さにジンとしてユタ・オリンピックパークに向かい、テレビ画面でスピードスケート男子1万mを見る。

そして、その後にインタビューのために会った越は、真っ青に晴れ渡った空を見上げながら、「これずっと快晴だった本当に恨みますよね。試合の日だけ雪が降ったんですから」と言って、朗らかな笑顔を見てくれた。満足ができないでも、8位という結果を受け止め、そこから次に進もうとする決意は、健気を感じるほどだった。

その翌日のクロスカントリー男子50kmで、7位でゴールして笑顔を見せながら戻ってくる、今井博幸を迎えることが出来た。レース後、ミューレーのドーピング違反で6位となつたが、これまで滴わないと思われていたこの種目の入賞は、他の競技のメダルに匹敵するような価値があったといえる。

ただただ、幾重もの疲労感に包まれただけだったようなソルトレーキ五輪。腰痛を押して獲得した清水の銀メダルや、里谷の銅メダルだけでなく、最後の最後になって見せてくれたペテラン選手たちの頑張り。地味な競技を長年続けてきた成果としての五輪賞を、心から讃えることで、それまでの疲労感が少しだけ軽減されていくような気持ちになった。

2002 F I F A
WORLD CUP プレス事情

「FIFAが決めたこと…」

スポーツカレンダーは留まる事を知らず動き続けています。昨年6月韓日共催のワールドカップ後、日本代表の監督にあのジーコが就任、2006年ドイツ大会に向けて「新生ジーコ・ジャパン」は、すでにスタートをきっています。

既に昨年のワールドカップを語るには時間が経ちすぎている、という意見もあると思います。また逆に、大会後何の報告もなされていないという感もあります。世紀の大イベントであった2002FIFAワールドカップで、いったいAJPS会員はどのような仕事をしてきたのでしょうか。大会が終了して約8ヶ月が過ぎた今、紙媒体として世の中に発表された皆様の「仕事ぶり」を紹介しつつ、「書き手」、「撮り手」の全体としてのバランスを知り、今後の展開に記録を残したいと思うところです。

赤木真二
Sinji Akagi

■ワールドカップに深く関わったAJPS
ここに掲載されているのは当協会員が執筆し、また撮影に参加して出版された写真集、ムック、書籍の数々です。書店に並んだワールドカップ関連の本の8割以上に何だかの形でAJPS会員が関わっていたことを物語る結果となっています。この一覧をご覧いただいた上で、改めてADカードの割り当てを見ていただきたいです。

大会終了後、日本での(日本登録で許可された)ADカード取得者の数を確認いたしました。其の人数をグラフ化したものがA、Bそれぞれの円グラフです。AがPRESS AD、BがPHOTO ADとなります。

PRESSは総数653のうち550が新聞と通信社。残数103を専門誌、スポーツ誌、WEBマガジン、オフィシャルプログラム、フリーランスが分配した形になっています。その対し、PHOTOは総数126のうち新聞が64、専門誌、Jリーグフォト、雑誌、フリーランス、オフィシャルプログラムが残りの半数を分け合った形になります。

そして、PHOTOには更に海外版でのAD取得者が17(10カ国)加わり、総数は143となっています。カメラマン37名の内、海外からのADが10であったことは、今大会の一つの大

プロ、ショットの各社員を含む)のPHOTO AD取得者は54にのぼります。

大会直後に簡単なアンケートを取り、当協会員で今大会ADカードを取得された方を中心に仕事内容をお聞きしました。その結果、出版を中心とした製作物の一覧として写真集、ムック、書籍の紹介となったわけですが、当然のことながらこれ以外に新聞、週間誌、月刊誌、Webマガジンなどに写真、記事を提供された協会員が大勢います。特にインターネットとデジタルカメラの普及に伴い、スピードを要求される媒体に掲載された写真、記事は膨大な量になり、その全てを網羅できなかったのは大変残念でした。特にライターの方の「コラム」「連載」に関して……。

AJPSの成り立ちからしてカメラマンの割合が多いことは明白ですが、AJPS会員のPHOTO AD取得者は37名。PRESS AD取得者8名、総勢45名となり、全体としては下記の割合となります。

PRESS	8/653	1.2%
PHOTO	37/143	26.2%

カメラマン37名の内、海外からのADが10であったことは、今大会の一つの大

な特徴であったといえます。

代表チームが参加している欧州の主要国であっても、極東取材の経費を考えると「保有のADを現地(日本)のカメラマンに譲って写真だけを伝送してもらったほうが採算に見合う」という結論は不思議なことではありません。今回、ドイツが3枚、スペインから2枚のカードがAJPS会員に出ているのは正にその辺の事情があってのことだと理解できます。

FIFA(国際サッカー連盟)の分配そのものは、バランスを保った形で行われていると言えますし、このような譲り合いに関しては今後も行われていくことだと言えるでしょう。しかし、それはあくまでも需要と供給のバランスであってのことです。今回の海外枠17というの特例であったと言えます。

さて、今回140に及んだカメラマンADは、次回ドイツ大会では4分の1になることは目にみえています。記者のADにいたっては6分の1以下と予想されます。今回、開催国の特例であったこの数字を厳粛に受け止め、3年後にやってくるADカードの配付の際の混乱を避ける意味でも、AJPSとしての今回の「数」を理解していただき、今後の展開に繋げていき努力をする必要性を痛感します。

■われわれに出来ることは何か?

さて、先に申し上げたアンケートでは大会のプレス対応に関して多くの感想をいただきました。共催という形で今回浮きぼりになった問題のうち、異口同音数多く寄せられた感想に、日本人の生真面目さの裏返しとして、スタッフの「融通の利かない」対応が挙げられています。

大会運営を円滑に、間違いなく、かつ公平に行うために、整然とマニュアルを作り対応するのは正しいことの反面、全てマニュアル通りにしか判断できない対応は、共催国「韓国」と比較しても目にするものだった、という感想です。

ボランティアの方々にルールを指摘され、なんとも割り切れない思いをした方も多かったことでしょう。「常識的判断」という曖昧さを排除してしまうことで、これだけ公平な大会運営ができるわけですが、ルールの中での許容範囲の狭さに悲しくなる場面も多くあったことは確かです。

その点、韓国との若いボランティアの

AJPS会員の残した仕事一覧 1



「SOUL!」
幻冬社 B5変形
戸塚啓・岸本勉・末石直義



「热狂」
FEVER PITCH 2002ワールドカップ写真集
NTT出版 A4判
岸本勉／他



「UNBELIEVABLE BLUES」
日本文化出版 A4判
岸本勉／他



「2002 KOREA JAPAN」
2002FIFAワールドカップ公式写真集
エクスナレッジ A5判
岸本勉／他



「2002 FIFAワールドカップ 最強の写真集」
コリア/ジャパンの軌跡
ネコパブリッシング
戸塚啓・清水和良・松本正・内ヶ崎誠之助／他



「A LOCUS OF WORLD CUP 2002 2002 FIFAワールドカップ コリア/ジャパンの軌跡」
最強の写真集
ネコパブリッシング
戸塚啓・清水和良・松本正・内ヶ崎誠之助／他



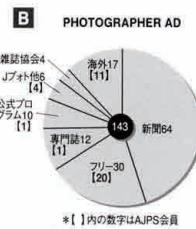
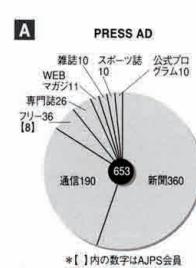
「2002年6月4日」
「2002年6月4日」
「16強で満足か?」
失意、闇夜、執念、希望——
2002FIFAワールドカップへの道程
日本代表・激闘の452日間。
戸塚啓



「蹴音」
「2002ワールドカップ日本代表リアルドキュメント」
主婦の友社 B6
元川悦子・六川則夫
戸塚啓



「熱狂」
「ワールドカップ2002・夢のような31日間」
実業之日本社 A5
杉山茂樹・木下健二



方々は、われわれが持つ問題に対し、こちらの立場で考へてくれる回数が格段に多く、「その上に立つ組織委員会の判断も柔軟であった」という感想が多く聞かれました。何を言っても「FIFAが決めたことです」としか対応しない日本の組織委員会の制服組とは残念ながら明らかに姿勢が違っていた、という事実でしょう。

共催だから見えてくるもの、自然と比較されている意識の差、これはわれわれ以外の海外取材陣の記憶にも当然残っています。食事の一件でも、欧洲の感覚とは懸け離れたサービスだったこと。一番重い機材を持ち歩くカメラマンの導線上に階段が複数存在したこと、とぐに横浜、静岡のそれはハードでありました。

取材者側を考慮した施設、サービスを今後の現場本位で考へていくために、われわれに何が出来るのか。大イベントの経験を無駄にしない努力は地道な交渉なのかもしれません。

■銀塩かデジタルか

ここで紹介した写真集、ムック、書籍に使用された写真の90%以上がフィルムで撮影された映像を写真原稿として印刷されています。フィルム撮影者はAJPS37人中22名でした。

撮影の90%以上をボジフィルム使用が17名。同じく70%以上をネガフィルム使用が5名。平均22試合の撮影で使用されたフィルムは一人平均450本。全体で約一千万本。そのうち約7,600本がボジフィルムという結果になっています。

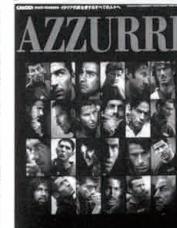
フィルム使用者の大多数が写真集、ムック、書籍の製作を目的とした「クオリティー重視」でボジを使用。また、比較的編集時間の短い週間スポーツ誌においても「クオリティー」および「作業上」の理由でボジフィルム使用者が複数、というレポートが寄せられました。今回、ネガカラーの使用は減少し、その分デジタルが増加したことは間違いありません。

速報性を重視してデジタル撮影100%が37人中15人。海外送信の場合は完全にデジタル化され、韓国との通信も95%はデジタル撮影によるものでした。国内でもWebマガジンのような媒体はほぼ100%デジタルとなり、その速報性が顕著に表れた結果となっています。

AJPS会員の残した仕事一覧 2



CALCIO+PIU
イタリアが泣いた日。
毎日新聞社 A4変形
兼子慎一郎・高橋在



AZZURRI
イタリア代表を愛する全ての人々へ
毎日新聞社 A4変形
高橋在



BECKHAM
ベッカムに魅了された全ての人々へ
スペクト A4変形
兼子慎一郎・六川則夫



NUMBER PLUS
文藝春秋社 A4変形
赤木真二・石島道康・大河原弘



2002日本代表全記録
新潮社
伊藤隆司・酒井高夫・松永和章、
加藤誠夫



決戦速報号サッカーダイヤシスト
日本スポーツ企画出版社
A4変形 佐藤明



2002年ワールドカップの眞実
著後藤健生
現場で見なければ
サッカーは見てこない!!



ワールド・サッカーメモリアル
2002 CD-ROM
著赤木真二／他



Menschen Tore & Sensationen
Bit burger (ドイツ)
乾晋也



開会式におけるコラ南北合同チームの行進。
Photo by M.TAKAHASHI



The 5th Winter Asia Games
ADOMARI 2003
© 1999 AJPS Co., Ltd.

昨年の韓国・釜山で開催されたアジア競技大会に続き、2月1日から青森で開催された冬季アジア競技大会でも本協会は日本オリンピック委員会のプロトコルの下、取材のためのADカードを得ることができました。関係者諸氏に深く感謝いたします。今後もスポーツ報道を通じ、スポーツの発展、進歩の一助となるべく活動し、スポーツ関連団体と良い関係が築ければ、と思っています。

以下は、たった一日の取材でしたが、とても楽しかった青森冬季アジア大会取材記です。

第5回冬季アジア競技大会

白髪 隆幸
Takayuki Shirahige

■開会式

冬季アジア競技大会の開会式の取材に青森まで行ってきました。飛行機で日帰りです。全日空の1日乗り放題チケット(1万円)を利用しました。

青森空港に着き、さっそくインフォメーションデスクで

「プレスセンターか市内へ出るシャトルバスはありますか?」

と聞くと、

「各競技会場へ行くシャトルバスはあります、市内へ行くのはありません。乗り合いバスで行ってください」という冷たい返事。こうした競技会の取材では、シャトルバスの有無で行動範囲がかなり変わってしまうことがあります。

とりあえず取材するにはADカードの有効化が必要で、プレスセンターへ行く必要があったのですが、ホテル青森1階ロビーでも出来ると言われ、乗り合いバスで青森駅の少し手前のホテル青森へ。

ホテル青森はVIPホテルのようで、館内に入るだけでセキュリティチェックがありました。なかなかしっかりやってるな、と感

心。

ADカードの有効化に成功したわたしは、開会式会場の青い森アーナへ行くことになりますが、足がありません。無理を承知でVIP用のバスに乗せてもえないか、と懇願すると

「本当はダメなんですが、まあプレスのADカードを持っていらっしゃるようですし、けっこうですよ」と乗せてくれた。

と聞くと、

「各競技会場へ行くシャトルバスはあります、市内へ行くのはありません。乗り合いバスで行ってください」という冷たい返事。こうした競技会の取材では、シャトルバスの有無で行動範囲がかなり変わってしまうことがあります。

とりあえず取材するにはADカードの有効化が必要で、プレスセンターへ行く必要があったのですが、ホテル青森1階ロビーでも出来ると言われ、乗り合いバスで青森駅の少し手前のホテル青森へ。

ADカードをかざしながら入場。ところ

が、第二ゲートで止められました。

「記者席への入場許可証がないとこ

らは入れません」

前日青森に入っていたAJPS会員の菅原氏がまとめて入場証を持ちすでにいる旨を告げる「じゃあ、電話でここまで呼び出して」とボランティアらしき人にいわれました。ところが、わたしは携帯電話を持ち合わせないし、公衆電話

がまるでない(最近こういうところが増えて困ります)。「しょうがないな」と自分の携帯電話を貸してくれました。ところが、電波の状態が悪いのか菅原氏と連絡がとれません。見るに見かねたボランティア氏「これで入って下さい」と予備の入場証を1枚くれました。いいぞ、いいぞ。

大きな立派なアーナでした。ただ、椅子が硬い、プラスティック(多分、プレス席は仮設だったからなのだろう)なのと、座席での飲食禁止は残念です。スポーツはジャンクフードを食べながら見ないといふアメリカ人なんか物を食べながらじゃないとスポーツ観戦はできません。

開会式はシンプルで良かったですね。参加した国と地域が29です。あれくらいの規模がちょうど良い。

『コレア』の行進は複雑な気分で見ました。それは、今大会の報道が政治的な側面からのものがありにも多いからです。本来のスポーツ大会の観点から、もう少し報道しても良いのでは、と思います。南北合同チームはその象徴ですから、拍手をしたい一面、そんなことも考えてしま

INFORMATION



萩原健司が聖火を持って場内を一周

木村公宣が選手宣誓

日本の行進で印象的だったのは、旗手・岡崎朋美の笑顔。選手が歩いていたのは意外と観客席から近くで、爽やかな彼女の笑顔がまさに見られました。「かわいいな」と。でも彼女の競技生活も長い。そろそろ有終の美を飾って欲しいですね(おおきなお世話)。

今回の日本チームは、今までの二線級の選手団ではなく、けっこ一流どころが参加していました。このチームでどこまで戦えるのか。そういう意味では楽しみでした。

OCA旗入場はガールスカウトのお嬢さんによって運ばれて来ましたが、個人的には過去の日本人オリンピックメダリストでやってほしかったですね。猪谷千春IOC委員とか橋本聖子議員とか、たまには公の場で見たいですね。萩原健司くんは聖火ランナーで見られましたけど……。

でも、最終ランナーの福士さんは寒そうでしたね。テレビモニターで屋外でおこなわれた聖火点火の瞬間を見るのは少々寂かったです。屋内で点火してほしかったな。後で外の聖火台を見ましたが、ちょっと貧弱でした(この後強風で消えたそうです。言わんこっちゃない)。

それでも市川笑也さんのスーパー歌舞伎はすごかった。大阪東アジア競技大会開会式のプリンセス引田の空中ショーもすごかったです。もうすっかり日本のお家芸です。あの手の空中プレーは。それと本物のねぶたの屋台も美しかった。

ちょっと気になったのは、青森県知事

ブランチや軽食、飲み物の無料サービスがあり、いごちは良さそうでした。記者の中には競技会場よりもプレスセンターに長くいる人も多いので、プレスセンターのいごちが悪いと大会全般の印象が悪くなります。

日本選手団と中国選手団の名簿が手に入らなかったのは残念でした。JOCのプレス対応の部屋もありませんでした。あと、プレス対応の公衆電話も少なすぎます。ほとんどの記者とフォトグラファーは記事や写真をパソコンで送りますから公衆電話が3台では少なすぎです。もちろんニコンとキャノンのデボは大活躍。

プラプラしていたら帰りの飛行機の時間が来てしまいました。タクシーで青森駅へ出て、乗り合いバスで青森空港へ。

日帰り青森アジア冬季大会ショートリップでした。

■閉会式をテレビで見て

2月8日、第5回アジア競技大会が全日程を終了しました。

初日の開会式を取り材し、仕事の都合がつけず再度青森に行こうと思っていたのですが、結局行かれませんでした。残念です。

帰りのプレスセンター行きのシャトルバス(近くの駐車場に待機していた)には3時20分に到着。ところが4時出発と運転手さん。でも「後にもう一台ありますから、満員にならぬましょう」。でも半分程度席が埋まっていた「満員にならぬので出発します」バス内は拍手の嵐。この種の国内イベントで、これほど融通のきく大会は初めてです。サッカーのワールドカップとはえらい違い。今大会はきっと運営はうまくいくぞ! と確信しました。

こうした総合スポーツ大会の場合、開会式が終われば、大会は半分終わったようなものです(これはまったくわたしの個人的な見解です)。その点、今大会の開会式はますます成功であったと思います。

地方都市の青森に、アジア29の国と地域から史上最大の選手・役員が集つたことが大きな意義でした。

これまで日本では、しばらく大きな国際総合競技大会を開く予定がありません。青森に刺激を受けてどこか名乗りをあげて欲しいものです。

(AJPSホームページ「白鷹隆幸の毎日がスポーツ三昧」の記事に一部訂正、加筆いたしました)



株式会社フレームマン 本社移転のご連絡

港区に本社事務所、本社工場と第二工場、四の橋工場と分散しており、倉庫は埼玉県戸田市と非常に効率が悪く不経済な状態だった本社ですが、この非常に厳しい御時世を乗り切って行く為に、まず経費削減を大きな目的として、思い切って墨田区へ移転し、本社並びに工場、倉庫、駐車場を全て1箇所にまとめる運びとなりました。

仕事の能率アップをめざし、ますます業界の皆様方のお役に立てるよう、精一杯努めて参りますので、どうか今後ともともかくお問い合わせください。

新住所: 東京都墨田区両国3-10-4
新TEL: 03-5638-2211(代)
新FAX: 03-5638-2218

代表取締役社長 奈須田恒雄
専務取締役 奈須田一志

Nikon

ニコンサービスデポのご案内

弊社では下記の通りサービスデポの設置を予定しております。機材の点検、掃除および、若干ではありますが機材の貸し出しも行いますので、お気軽に立ち寄りくださいますよう、皆様のご利用をお待ち申し上げております。

下記に掲載しましたサービスデポは諸般の事情により、変更となることがあります。

また、サービス内容は大会によって異

なりますので、該当する大会にお越しの際は前もってニコン・プロサービスセンタまでご確認ください。なお、デボ情報は決定次第NPSホームページ(<http://biz.nikon-image.com/nps/>)に更新させていただきます。

全日本フォーミュラーニッポン第1戦
(鈴鹿サーキット)

3月22日(土)~23日(日)

第75回選抜高校野球大会
(阪神甲子園球場)

3月22日(土)~4月1日(月)

なお、「NPSニュース」ホームページにログインするためにはユーザー名、パスワードの入力が求められます。詳しくはニコンカメラ販売株式会社プロサービスセンター(TEL03-5608-5515)までお問い合わせください。

【主な特長】

- ・5.0メガピクセル、光学7倍ズームによる高画質と広い撮影領域
- ・64MB SDRAMが可能にした高速・快適連写と高い撮影シーン対応力
- ・撮影者の意図を迅速かつ確実に反映し、創作効率を高める便利機能
- ・デジタルならではの撮影アシスト機能
- ・高級感・重圧感のあるデザイン

DiMAGE Scan Dual III

新発売
メーカー希望小売価格¥44,800



【主な特長】

- ・16bit A/D変換・
2820dpiの高解像度
入力による高品質な
画像
- ・USB2.0対応により
高速スキャンを実現
- ・先進の自動画像補
正機能と自動ほこり
除去機能
- ・簡単、快適操作のド
ライバソフト



DiMAGE 7i

新発売
メーカー希望小売価格¥188,000

Kodak

2月26日(水)、「コダック プロフェッショナル エクタクローム フィルムE100G」「コダック プロフェッショナル エクタクローム フィルムE100GX」を発売いたしました。

いずれも感度はISO100で、コダック独自の最新技術「カラーアンプリファイング技術」と「ハイエフィシエンシー“T-粒子”乳剤技術」を採用しています。

これらの最新技術により、粒状性を大幅に向上させ、滑らかで偏りのない階調再現を実現すると共に、最低濃度を下げることで、抜けのよいハイライトが表現できるようになりました。



オートメーターVF
新発売
メーカー希望小売価格¥48,000

- 【主な特長】**
- 充実のフラッシュ光測定機能
 - 幅広い表示範囲
 - 多彩な露出演算機能
 - 小型・軽量・シンプル操作
 - 使いやすい単3乾電池(1本)を使用

ミノルタ製品お問い合わせ先
フォトサポートセンター:

ナビダイヤル 0570-007111
ダイヤルイン 03-5351-9410
インターネット ミノルタ ホームページ
<http://www.minolta.co.jp/>

FUJIFILM

レンズ交換式中判(645サイズ)
AF一眼レフカメラ
FUJIFILM GX645AF
プロフェッショナル
平成15年2月20日新発売
メーカー希望小売価格
ボディ、AEファインダー、マガジン
¥540,000
SUPER-EBC FUJINON HC
80mmF2.8
¥185,000

- 【主な特長】**
- 高性能CPUとレンズ駆動を超高速に制御する新技術により、クラス最速のオートフォーカスを実現。
 - 電子制御式レンズシャッター採用により、最速1/800秒までシンクロ全速同調。
 - クラス初、TTL自動調光のポップアップ式のフラッシュ上部に内蔵。
 - レンズの焦点距離に合わせてプログラムが変化するプログラムバリアルAE採用。
 - 新開発のAF HC FUJINONレンズ群。スーパーEBCマルチコーティング採用し、GX645AF用に新開発された驚異的な解像力と圧倒的な描写力を実現。
 - 高剛性アルミダイキャストボディと外装にはステンレスを採用し、流麗にして堅牢、際立つ信頼性と存在感をアピール。
 - 手にじむホールド感。最適な使いやすさを提供するユーザーカスタム設定も搭載。
 - 新開発、交換式のフィルムマガジンに巻き上げ式遮光板を内蔵。
 - 秒間2コマの高速連写性能と優れた安定性を実現。
 - プロ写真家のニーズに応え、デジタルカメラシステムとしての拡張性も備える。



この製品の問い合わせ先:
富士写真機株式会社
カメラ事業部 営業部
TEL:048-668-2236

Canon

UEFAヨーロッパサッカー選手権
2004を協賛

キヤノンは2004年にポルトガルで開催される「UEFA European Football Championship(通称:UEFA EURO 2004/以下UEFAヨーロッパサッカー選手権2004)」の公式スポンサーとして協賛することを決定しこのほど、スポンサー契約を締結しました。

「UEFAヨーロッパサッカー選手権」は、1960年から4年に1度開催されている欧洲最大のサッカーベントです。今回の「UEFAヨーロッパサッカー選手権」では、2002年9月から2003年11月にわたり、UEFA加盟の50カ国により、1グループ各5チームの計10グループで予選が行われています。また、2004年6月12日から7月4日までポルトガル国内の8都市10会場で開催される本大会は、予選各グループ1位の10チームとブレーチオフを勝ち抜いた5チーム、さらにポルトガルを加えた計16チームによって優勝が争われます。

キヤノンは、本イベントの円滑な運営を図るために、各会場に隣接して設置されるメディアセンターや大会事務局に対し、プリンター、ファクシミリおよび複写機といったオフィス機器を提供します。さらに、報道・スポーツカメラマンを対象として、カメラ、デジタルカメラ、レンズの貸出およびメンテナンスサービスを行います。

なお、キヤノンは今回の契約により、欧洲各国の21歳以下の代表選手によって行われる「UEFA Under-21 Championship(2004年開催)」において、公式スポンサーとして協賛します。

本件に関するお問い合わせは、キヤノン株式会社 広報部広報第一課 (TEL03-5482-8058)まで。

AJPS会員の 写真集 出版情報

BOOKS

(大下桃子さん) 写真集発売

会員の大下(木下)桃子さんの写真集が発売されましたので、お知らせいたします。

『ベルント・グレーバー写真集』

撮影 大下桃子
B5判横開き(天地182mm×左右257mm)
総ページ:76ページ
上製本ジャケット掛け
定価:2,500円
(本体価格2,381円+消費税)
発行:株式会社 美術出版社

〈販売方法〉

※インターネットによる販売
<http://www7.plala.or.jp/~shirohs/berndphoto1.htm>

※現金書留による販売

〒171-0033
東京都豊島区高田1-38-4
スタジオ エム内
ベルント スノーマン クラブ
TEL 03-3971-4416

なお、販売代金の一部はベルントファミリーに贈る予定です。

(砂田弓弦さん) 写真集発売

会員の砂田さんの写真集が発売されていますので、お知らせいたします。

自転車ロードレース写真集

『フォト!フォト!フォト!』

写真と文 砂田弓弦

A5判上製208ページ

定価:2,500円(税別)

発行:未知谷

北のクラシックから世界選手権まで世界各国の自転車レースを取材し続ける唯一の日本人力ママン、砂田弓弦。

一時情報に拘泥したレースレポートでの知られる氏が、撮りためた写真より厳選した200余点。

2001年競輪広告大賞特別賞受賞作。

イタリア一周自転車ロードレース写真集
『GIRO(ジロ)』

写真と文 砂田弓弦

A5判上製224ページ

定価:2,500円(税別)

発行:未知谷

1989年よりイタリアを拠点に、ジロ・デ・イタリアを徹底取材! その魅力を余すところなく紹介する200余点を収録。またレースを報道する取材陣もレースを構成する重要な要素であることが伝わってくる。失敗談ありのエッセイも収録。

以上、2冊は全国の書店で発売中です。お問い合わせは、

〒101-0064
東京都千代田区猿楽町2-5-9
青野ビル

未知谷(TEL03-5281-3751)まで。



編集後記
白髭隆幸

ここに2年ぶりの『AJPS NEWS』を発行することが出来ました。原稿を書いていただきまして、AJPSの会員も130人を超える勢いですが、もちろん日本のフリーランス・ジャーナリスト、フォトグラファーがすべてAJPSに加入しているわけではありません。これだけの多くの人たちが、日本のスポーツジャーナリズムの世界で、フリーランスで食っていくだけの市場があるだけでも驚きです。

AJPSは、2003年からホームページを立ち上げています。今後はホームページの利便性、速報性を生かしつつ、『AJPS NEWS』の発行も考えなければなりません。これまで以上の協力をよろしくお願いいたします。

**AJPS 日本スポーツ
プレス協会会報** 20
MARCH 20
2003

編集・発行人 水谷 章人

編集スタッフ 白髭 隆幸

編集協力 光本 淳(色えんぴつ)

編集・発行所 日本スポーツプレス協会(AJPS)

〒112-0013
東京都文京区音羽1-21-10 関根ビル602

TEL 03-3946-9033

FAX 03-3946-9036

HP <http://www.ajps.jp>

E-mail:ajpsjim@attglobal.net



日本スポーツプレス協会

Canon

CREATE

PRO LAB FOR CREATIVE PROFESSIONALS

FUJIFILM

HORIUCHI COLOR

Kodak

Konica

**SHASHIN
kosha**

MINOLTA

Nikon

OLYMPUS

PENTAX

